

## 平成25年度発掘調査遺跡の紹介

### ろく たん だ みなみ 六 反 田 南 遺 跡

(糸魚川市大字大和川字六反田地内)

遺跡は海岸線から約200m南へ入った海川下流右岸の標高3～6mの沖積低地に立地します。北陸新幹線及び一般国道8号糸魚川東バイパス建設に先立ち、平成18年度から発掘調査を継続してきました。本年度は、昨年度に続き市道2区とKC3区の上・中・下層、延べ9,211㎡を調査しました。これまでの調査で縄文時代中期から近世まで断続的に存続し、縄文時代中期前葉から中葉、古墳時代前期、古代に集落が営まれていたことが分かっています。今回はKC3区中・下層（縄文時代中期）の調査成果について報告します。

**中層** 調査区北西のわずかな高まりから縄文時代中期中葉後半（約4,500年前）の居住域が見つかりました。5軒の竪穴住居が近接し、それらすべてに石組炉が設置されていました。その内の2軒は石組炉が上下に重なることから、建て替えの可能性があります。居住域から東は遺構・遺物ともに希薄で、生活の場としてあまり利用されなかったと考えられます。下層が洪水により埋没した後、長い期間を空けず再び同所に居住の場を求めたことは特筆されます。

土器は石川県や富山県を中心とする北陸系の古府式が多く、これに東北系や中部高地系が加わることから、各地との交流がうかがえます。石器は糸魚川地域の特産品であった蛇紋岩製磨製石斧の成品や未成品が多く出土しています。このほかに大型の石棒が出ています。居住域から東へ40mほどの場所で、頭部を西へ向け、横たわった状態で見つかりました。これは男性器をシンボル化したものとされ、祭祀儀礼や信仰の対象として



KC3区下層 近景（西から）



KC3区中層の竪穴住居群（北東から）



大型石棒出土状況（北西から）

て利用されたと考えられています。長さ100.4cm、最大幅15.6cm、重さ31.8kgで、安山岩系の石材を用いて全面の敲打及び研磨によって成形されています。阿賀野市ツベタ遺跡（長さ92.0cm）や長岡市馬高遺跡（同90.5cm）と比較しても県内最大級の大きさです。

**下層** 遺構・遺物は厚さ約80cmの洪水堆積層の下から見つかりました。時期は中層とそれほど時期差のない縄文時代中期前葉から中葉（約4,500年前）です。

調査区東では南から北東へ延びる尾根状の高まりに居住域があり、大小5軒の竪穴住居を検出しました。その中の一つSI9656は平面が楕円形で、長軸上に2基の石組炉が設置されていました。最大径が10m以上になる大型竪穴住居です（一部調査区外へ延びるため推定）。住居の周辺には、フラスコ状を呈した浅い土坑が多く見付き、中から土器片や石器の未成品が出土しています。居住域における遺物の出土量はそれほど多くないことから、昨年度から今年度初めにかけて調査した東側の廃棄域に不用品を捨てたと思われる。

沢状の地形を挟んだ調査区西では、洪水堆積層直下から竪穴住居が1軒（SI9601）見付きました。堆積状況から半埋没状態で洪水にあったことが分かっています。竪穴部の周囲には、周堤と考えられる礫混じりの土が厚さ10cm、幅2m前後で巡っていました。周堤は竪穴内部に雨水などが浸入しないようにするための土手状の高まりで、県内では3遺跡目の確認となります。また、竪穴内部に焼失したとみられる垂木（屋根材の一部）が倒れた状態で求心的に残っていました。焼土が垂木上に載っていたものもあり、土葺屋根の可能性がうかがえます。直径は竪穴部が3.5mで、周堤を含めると7.7m前後となり、縄文時代では比較的小型の住居です。本遺構は、縄文時代の六反田南遺跡の竪穴住居がどのような構造であったかを知る手掛かりになります。また本遺構から北へ20mほどの場所から土器や石器がまとまって見付き、出土量から小規模な廃棄場であると考えられます。土器は東の居住域のものよりも幾分新しいことから、本住居周辺に居住していた人々が利用していたことがわかりました。

土器は石川県や富山県を中心とする北陸系の上山田・天神山式が多く、これに東北系、越後系、中部高地系が加わります。石器は中層と同じく蛇紋岩製で、磨製石斧の成品・未成品及び工具類が多く出土しました。土器に比べ石器や石の破片が多いことから、集落内で石器の製作を行っていたようです。

今回の調査では多くの竪穴住居が見つかりました。時期によって居住域が若干異なるものの、おおむね同所に集落を営んでいたことがわかりました。今後、六反田南遺跡の縄文集落の構造を明らかにするうえで、とても貴重な発見となりました。

（株吉田建設 今井昭俊）



K C 3 区下層の竪穴住居群（北東から）



大型竪穴住居（SI9656）（南西から）



周堤を持つ焼失住居（SI9601）（南から）

# よ かわ なか みち 遺 跡

(南魚沼市余川字江端ほか)

余川中道遺跡は、魚野川の支流・平手川や近尾川により形成された扇状地に立地します。一般国道17号六日町バイパス事業に伴い、平成15・21年度に続き、3回目の発掘調査を行いました。調査面積は800㎡ですが、遺跡が3面重なっていたため、累計で2,400㎡を調査しました。

今回の調査では、古墳時代の水田を発見しました。水田は、洪水堆積物・土石流堆積物を挟みながら上層・中層・下層に分けることができます。水田であるため、遺物が少ないものの、古墳時代中期（5世紀）の土器が出土しました。この土器の年代は、約500m西側の丘陵上に位置する飯綱山古墳群や蟻子山古墳群（いずれも県指定史跡）が築造された時期であり、古墳群に関連した人々が残した水田と考えられます。

今回の調査で最も良い状態で検出できたのは、下層の水田です。現地表下約3～4mの深さから検出しました。土石流によって流されてきた砂利に覆われていたため、それを取り除くと、当時の水田が姿を現しました。畦の高さは数cm～10cmほどと低いものの、みな同じ方向を向いており、2m×2.5mほどの小さな区画が整然と築かれていました。水田の区画は、当時の地形に沿うように設計されたようです。上の水田から下の水田へと水を落としていくような構造と見られることから畦の一部が途切れており、水が流れたことによる浸食も認められました。古墳時代の水田は、県内でも発見例が少なく、貴重な資料といえます。

また、水田が築かれた当時、地震や土石流災害が相次いで発生していることが分かりました。人々は、大規模な災害に見舞われながらも、当地に留まり、水田を復旧しています。当地に留まり続けた背景について検討することが、今後の大きな課題です。

(加藤 学)



遺跡近景



下層の水田（中央の大きな溝は土石流が流れた痕）



地震による液状化現象痕（噴砂脈）



水田面に残された人の足跡

## 埋文コラム

## 余川中道遺跡の石製品・石製模造品

3ページでご紹介した余川中道遺跡から出土した大量の石製品・石製模造品について解説します。

余川中道遺跡の平成15年度の調査では、古墳時代中期でも5世紀中葉から末葉のお祭り関連の土器や石製品が、12か所から見つかりました。これらを土器集中遺構（写真1）と呼び、見つかった土器を接合したところ、完全な形に復元できるものが多く確認できました（写真2）。このことから、この場所では使えなくなった土器を捨てたのではなく、壊れていない土器でお祭りを行ったものと考えられます。

土器集中遺構では石製品や石製模造品もたくさん見つかりました（写真3）。石製模造品とは、青銅・鉄やヒスイなどの材質で作られたものを、加工しやすい石材を使ってまねして作ったものです。お祭りの供え物として使用されたと考えられ、古墳時代中期にムラで見つかるようになります。余川中道遺跡では、剣形や勾玉形、円盤形などがあり、出土量は県内一です。穴の開いたものは、紐を通して使用されたと考えられます。

お祭り用の石製品で最も多く見つかったのは白玉です。石材は滑石と呼ばれる加工しやすいものがほとんどですが、コハクや緑色凝灰岩で作られたものもあり（写真4）、堅穴住居などから見つかったものを含め1,681点に及びます。白玉はとて小さく直径5～7mmのものがほとんどで、重さも0.1g以下のものが大半です。「吹けば飛ぶような」石製品ですが、丁寧な発掘調査によって数多く検出することができました。断面の形を調べることにより作られた時期がわかり、図2を参考に観察したところ、本遺跡のものは断面形C類が圧倒的に多く、断面形A・B類は極端に少ないため、一緒に見つかった土器の時期とも整合することがわかります。

白玉の製作地は明らかになっていませんが、糸魚川市六反田南遺跡では製作途中の未成品が見つかったことから、候補地の一つと捉え、今後も追究する必要があると考えています。

（新潟県教育庁文化行政課 滝沢規朗）



写真1 土器集中遺構



写真2 復元された土器



写真4 白玉（1はコハク、2は緑色凝灰岩、3は滑石）



写真3 石製模造品



図1 白玉の実測図（原寸大）

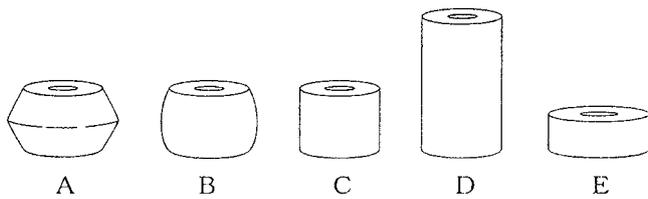


図2 白玉の分類模式図

図2・3は篠原祐一 2011年「五世紀における石製祭具と沖ノ島の石材」『「宗像・沖ノ島と関連遺産群」研究報告Ⅰ』[「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議（福岡県・宗像市・福津市）編集]第2・7図から抜粋・一部改変

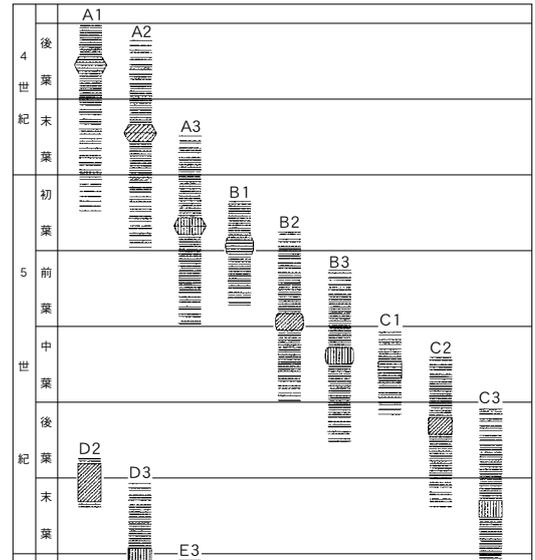


図3 白玉の分類・編年図

## 現地説明会・体験学習を実施しました

### ■現地説明会

平成25年度は8遺跡の発掘調査を行い、新発田市・阿賀野市・柏崎市・南魚沼市・上越市・糸魚川市で現地説明会を開催しました。説明会では、検出した遺構や遺物について調査員が現地で説明し、参加者からの質問に答えました。

※現地説明会の当日資料はホームページ

(<http://www.maibun.net>) に掲載しております。

開催日	遺跡名	所在地	事業名	主な時代	参加人数
6/1(土)	小船渡遺跡	新発田市	国道7号 新発田拡幅	古代・中世	145
10/26(土)	山口遺跡	阿賀野市	国道49号 阿賀野バイパス	古代・中世	55
10/26(土)	山口野中遺跡	阿賀野市	国道49号 阿賀野バイパス	古代・中世	77
10/5(土)	宝田遺跡	柏崎市	国道8号 柏崎バイパス	古代・中世	82
10/5(土)	余川中道遺跡	南魚沼市	国道17号 六日町バイパス	古墳	125
8/3(土)	清水田遺跡	上越市	国道253号 上越三和道路	古代・中世・近世	79
9/28(土)	海道遺跡	上越市	上信越自動車道	古代・中世・近世	12
11/9(土)	六反田南遺跡	糸魚川市	国道8号 糸魚川東バイパス	縄文・古墳・古代	165

### ■校外学習・「花ふるフェスタ」「越後国域確定1300年記念事業」(親子考古学教室・まいぶん祭り)

おもに小学校6年生の歴史の授業の一環として、埋蔵文化財センターの見学、火起こし・勾玉作り・模造石器で野菜を切る、などの校外体験学習を実施しました。また、「親子考古学教室」「まいぶん祭り」や「花と遺跡のふるさと公園」内にある施設が催した「花ふるフェスタ」では広く一般の方に火起こし・勾玉作りなどを体験していただいたほか、希望者には埋蔵センターのバックヤード見学も行い、好評を博しました。

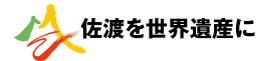


## 県内の遺跡・遺物84

## 国指定史跡佐渡金銀山遺跡 鶴子荒町遺跡

(平成23年2月7日指定)

(遺跡所在地：佐渡市沢根五十里地内)



鶴子荒町遺跡（以下荒町遺跡）は、鶴子銀山の南側、しなみ沢左岸の丘陵上、標高約90～134m付近に立地する鶴子銀山の鉱山集落跡で、遺跡内を鶴子道と呼ばれるかつての幹線道路が通っています。ここから北側の山中には鶴子銀山の採掘跡が広がり、西側には鶴子銀山代官屋敷跡（以下代官屋敷跡）があります。荒町遺跡は、広域林道国仲北線の道路工事の際に、16世紀末から17世紀前半の陶磁器や鉱滓等の遺物が出土したことから確認されました。

集落が成立した時期は不明ですが、隣接する代官屋敷跡が天正17年（1589）に置かれたとされることや、16世紀末より本口間歩などの開発が行われ、鶴子銀山が発展をしていくことから、この時期ではないかと推定されます。安政5年（1858）に描かれた絵図「〔鶴子本口脇より岡割目論見墨引図〕」には、陣屋跡（代官屋敷跡）の東側に、かつて「あら町」と呼ばれた町屋があり、勝場（選鉱所）や床屋（製錬所）があったという記述があることから、住居のほかには鉱山に関する施設があったことがわかります。

平成24年度の確認調査では、代官屋敷跡の東側に大小様々なテラス（平坦面）が分布し、それらをつなぐように道路跡も確認できました。遺跡の範囲内では、高い標高に位置するテラスから、建物の柱跡と思われる遺構も見つかりました。また、林道国仲北線脇のテラスからは金属製錬に関連した遺物とともに、製錬炉の可能性のある遺構が複数発見されました。

平成25年度は、このテラスを中心に発掘調査を実施したところ、テラス西側のやや高い小テラスからは、長方形基調の大型の掘り込みを持つ遺構が見つかり、その上面からは人頭大程の礫が大量に出土しました。

東側のやや低い小テラスからは、鉱滓や炭化物を大量に含む不整形遺構や溝状遺構が多く検出され、「製錬炉跡」とみられる遺構が2基確認できました。同様な特徴を持つ堆積土が周辺でも複数地点で確認できることから、他にも炉が存在している可能性もあります。さらに、周辺からは鉱滓や羽口など製錬に関連する遺物や、中国産青花や伊万里焼などの磁器や唐津焼・備前焼などの陶器が出土しました。これらの陶磁器は、16世紀末頃から17世紀前半にかけて生産されたもので、文献等から想定される遺跡の年代を裏付ける資料といえます。

そして、これら小テラスをつなぐように、1.6m間隔で並ぶ柱の穴と思われる痕跡も見つかりました。近くの斜面からは、大型の鉱滓や含有量のきわめて低い石英質の鉱石が多く見つかり、このテラス一帯が製錬を行っていた施設である可能性が極めて高いと考えます。

(佐渡市世界遺産推進課 濱野浩)



出土品（鉱滓及び唐津焼）



荒町遺跡の丘陵上部の遺構



林道国仲北線脇テラスの発掘現場全景



製錬炉跡の状況

## 埋文にいがた No.86

発行 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団  
〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1  
TEL (0250)25-3981  
FAX (0250)25-3986  
E-mail: niigata@maibun.net  
URL: http://www.maibun.net  
印刷 阿部印刷株式会社